

和地ひとみレポート No.285

降水量の大きな変化からも早期の整備を目指して…

空堀川流域の雨水整備はぜひ広域で

■全国的に立ち遅れた雨水処理対策

…ここ近年の気象の変化による雨量の増加で、毎年のように日本全国で自然災害が発生しています。特に夏の豪雨による被害は、突発的なものも多く、傾斜地や山間の土砂災害や川の氾濫のみならず、市街地での冠水、浸水などの被害は、東大和市に暮らしている私達にも起こり得るものです。よって東大和市の対応の緊急性も高まっていると感じます。

…近年の局所的な豪雨の増加や市街化の進展による道路や地表面の舗装等に伴う雨水浸透量の減少(雨水流出量の増加)により下水道の雨水排除能力を超える雨水の流出することは、一般的に都市型水害の原因として挙げられている点ですが、この雨水のための下水道の整備については、全国的にみても立ち遅れている状況とのこと。その理由は、昭和45年ごろから急速に整備された日本の下水道は、高度経済成長の反映の中で国民が「便所の水洗化」を強く要望するなど、主に水質汚濁対策として設置されたからとのこと。そのため、下水道の持つ「汚水対策」と「雨水対策」2つの大きな役割のうち「雨水対策」が軽視されてしまったことも近年の災害の原因の一つであると指摘する有識者もいます。東大和市においても、昨年もTVのニュースなどで、主に市の南部で道路冠水をしている映像なども取りざたされるなど、雨水対策の課題は年々増加している状況です。

■空堀川流域雨水整備

…東大和市内を流れる空堀川は、柳瀬川の支流の一つで野山北公園に源とし、途中、奈良橋川を合わせて清瀬市中里で柳瀬川へ合流する流域面積26.8平方キロメートル、河川延長15.0kmの一級河川ですが、近年、東京都による整備も進められているため、その工事現場を目にしている方も多しと思えます。

…この空堀川の南部地域は、地形的に雨水排除が困難な場所であり、東大和市、立川市、武蔵村山市の3市による広域的な雨水対策のための流域下水道幹線の整備の必要性が以前より課題となっていました。

そのため、東京都の流域下水道と上記3市の公共下水道を一体とした雨水対策の実現に向けて、平成29年8月に東京都と3市による「空堀側流域広域雨水整備検討協議会」が設置され、空堀側流域の広域的な雨水対策に関し検討が進められてきましたが、この度、その「整備手法の比較(案)」が東京都から示されました。
※整備手法の比較(案)のは裏面を参照ください。

…下水道整備は、基本的には各自治体が行うこととなっていますが、2つ以上の自治体をまたぐ広域的な整備をする場合は、国からの補助のほか、東京都からの補助も出る事業となりますが、そのためには各市と東京都との協議が必要です。



…「空堀川流域広域雨水整備検討協議会幹事会」の資料では、平成31年度予算要求までの今年度中に『整備手法の検討(公共と流域の比較)』として「対象区域の設定」、「ルートを選定」、「事業費と費用負担の算定」を行うほか、段階的整備手法の検討を行うスケジュールとなっていますが、東京都の担当者からは「工事着手時期については未定である。下水道法において、雨水整備は原則として公共下水道管理者が行う(≒立川市、東大和市、武蔵村山市の各市が行う)ものであるが、その中で流域下水道方式を採用できるともされている。協議会での検討結果が流域下水道方式の方が有利となった場合、都として流域下水道方式を採用するという意思決定を行うためには、関係部署と調整して了承を得たうえで、具体的なスケジュールを検討することになる。」との発言もありました。そのため、来年度の東京都の予算に整備費が盛り込まれるかどうかは不確実な状況だと思われます。

■合理性を重視すれば

…「空堀川流域雨水整備手法の比較(案)」を見れば、全体の整備費の概算額、概略工期、整備後のメンテナンスで合理的な案はD)の複数市連携を選択すべきと誰もが思うはずですが、しかし、この案を採用するには、前述の通り様々な調整や協議が必要。東大和市の担当者もD)案が良いと考えているものの、絶対にこの案が採用されるという確信もなく、万が一、各市単独で整備することになった場合でも、東大和市は近い将来にこの雨水処理に対応をしなければならないとの認識です。その場合(=東大和市単独で整備する場合)、その費用の大部分は東大和市独自で賄わなければならないため、そのための基金(積立金)もないため、通常どおり考えれば、一般財源から賄わなければならないようになります。…今現在、各自治体の財政状況にはゆとりがないことは明白で、今後、様々な公共施設の老朽化にも対応しなければならぬため、どこの自治体でもさらに多額の費用が必要となってきます。このよう状況を考えれば、関係する3市も東京都もD)案を採用すべきです。今回、比較表が出たにも関わらず、協議が必要だという状況には首をかしげたくもなります。東大和市民も東京都民であり、都も各市も限られた財源を合理的かつ効果的に活用することを第一に検討や協議を進めていくべきだと感じます。

まずは、東大和市においては市長を先頭に、他2市、東京都との調整をスムーズに進めてもらいたいと思います。

空堀川流域雨水整備手法の比較(案)

～平成30年3月29日 空堀川流域広域雨水整備検討協議会資料より～

※現時点での検討内容であり、今後変更する場合もある。 ※表中の「立」=立川市、「東」=東大和市、「武」=武蔵村山市

整備方式		A) 各市単独	B) 複数市連携①+市単独②		C) 複数市連携②+市単独②		D) 複数市連携
			武蔵村山市 + 立川市	東大和市	武蔵村山市 + 立川市	東大和市	
対策案 概要	特長	広域幹線整備は行わず、各市が単独で対策整備を行う。	武蔵村山市と立川市の2市に幹線を整備する。自然流下で東大和市を通過し、東大和市最東部付近で空堀川へ放流する。	東大和市の雨水を取水する幹線を整備し、東大和市の最東部付近で空堀川へ放流する。	武蔵村山市と立川市の2市に幹線を整備する。武蔵村山市最東部付近で空堀川へ放流するが、吐口の付近の河床高よりも低地部の雨水を排除するため、ポンプが必要となる。	東大和市の雨水を取水する幹線を整備し、東大和市の最東部付近で空堀川へ放流する。	武蔵村山市から東大和市にかけて空堀川右岸の流域を横断する雨水幹線を整備し、各市の雨水を一括的に取水した後、東大和市の最東部付近で空堀川へ放流する。
	ポンプ	1基	-	-	1基	-	-
	対象面積	647.5 ha (立 82.6 +東 345.67 +武 218.87)	301.83 ha (立 82.96 +武 218.87)	345.67 ha	301.83 ha (立 82.96 +武 218.87)	345.67 ha	647.5 ha (立 82.6 +東 345.67 +武 218.87)
	幹線延長	立 5.5 km 東 4.4 km 武 2.7 km	6.1 km	4.4 km	2.8 km	4.4 km	6.1 km
経済性(概算費用)		約 550 億程度	約 400 億程度		約 700 億程度		約 300 億程度
施工性		・ポンプ用地の確保及びポンプ所の建設が必要。 ・2本の幹線ルートが重複するため、大深度になる可能性が高く施工性に劣る。	・2本の幹線ルートが重複するため、大深度になる可能性が高く施工性に劣る。		・ポンプ用地の確保及びポンプ所の建設が必要。		
概略工期		約 17 年	約 20 年		約 11 年		約 15 年
維持管理性		ポンプの通常の維持管理が必要。	スクリーン清掃以外、特別な事は不要。		ポンプの通常の維持管理が必要。		スクリーン清掃以外、特別な事は不要。
留意点		・ポンプ用地が確保できない場合、本ケースでは対応困難。 ・重複ルートでの各市間での協議が必要。 ・立杭用地(公共用地など)確保が必須。	・重複ルートでの各市間の協議が必要。 ・立杭用地(公共用地など)確保が必須。		・ポンプ用地が確保できない場合、本ケースでは対応困難。 ・立杭用地(公共用地など)確保が必須。		・立杭用地(公共用地など)確保が必須。

市政、議会について「自然体」「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】

「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP : <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木 3-274-2-102